

議：三師会での取組はどうか。

委：研修会は昼間開催のため参加は難しいが、夜間開催の機会があれば、協力がもらえると思われる。

委：市役所職員向けの研修会と市民健康講座の内容にはどのような違いがあるか。

委：市民健康講座と職員向け研修会では、対象者が異なるため内容の変更も検討している。職員向けではアンケートの実施や、対応の方法等具体的な内容を実施していたが、市民向けでは、霧島市の資源の活用や関係機関とつながる重要性なども伝えていきたい。

議：通報があった際に、最初に現場にかけつける警察や消防としての意見はどうか。

委：自傷行為をしてしまい、結果として自殺につながったケースの場合、家族のショックが非常に大きい。消防隊として、家族への声かけやフォローをしたいが、業務上時間が足りず十分なケアまで行き届かない場合がある。家族への支援も課題として考えていきたい。また自殺企図があった方へのフォローも他職種間で連携していく必要がある。

委：警察としては、相談者の話をよく聞いて、少しでも気持ちが軽くなるよう努めている。

議：研修による窓口職員の個人のスキルアップも必要だが、相談窓口に足を運ぶのは相談者にしてみればハードルが高い。一人で抱えている悩みを、誰かと共有することで、解決に向けて一つの力になるので、今後は地域の身近な所に愚痴が吐き出せる場所や共有できる場所を関係機関で連携しながら作っていくことも検討してほしい。また現在のゲートキーパーの研修会の取組状況では、市全体の関係機関を集めて実施するのは難しい。各企業や学校、各専門機関等において各々が研修会を実施し、それを積み重ねていくことで、市全体に広げていきたい。小さな活動の積み重ねにより、サポート体制として大きなつながりを構築できるようにしたい。

委：市職員向けの研修会に、保健所職員や他の関係機関の窓口対応をしている職員も参加できるようにしてほしい。

議：今後は、現在の研修内容に、フォローアップ研修会を組み合わせることも検討してほしい。

(2) その他について

事：令和2年度に作成した霧島市自殺対策計画が作成して概ね5年になるため、来年度には計画内容の見直しを予定している。委員の皆様にはご理解とご協力をお願いしたい。

会議資料

【配付資料】
○令和6年度 自殺対策検討委員会資料